

会議録

会議の名称	第1回西東京市地域自立支援協議会 計画改定作業部会
開催日時	2018年5月21日（月）午後6時30分～午後8時00分
開催場所	西東京市役所 田無庁舎5階 503会議室
出席者	高田部会長、橋爪副部会長、山口委員、小澤委員、根本委員、櫻井委員、本波委員、小矢野委員、久松委員
欠席者	室山委員、天宮委員
傍聴者人数	2名
議題	(1) 「西東京市障害者基本計画」の改定について (2) スケジュールについて (3) 昨年度計画策定部会において出された本部会で検討する事項 (4) 西東京市における関連施策の進捗状況について
会議資料の名称	委員名簿 西東京市地域自立支援協議会計画改定作業部会設置要領 資料1：「西東京市障害者基本計画」の改定について 資料2：スケジュールについて 資料3：昨年度計画策定作業部会において出された今部会で検討する事項 資料4：西東京市における関連施策の進捗状況について 参考資料：西東京市障害者基本計画 参考資料：第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画 計画書 参考資料：第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画 計画書概要版 参考資料：（平成29年度実施）「西東京市の障害者福祉に関する調査」報告書 参考資料：（平成29年度実施）アンケート調査の実施状況 参考資料：西東京市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年～平成31年）概要版 参考資料：第4次障害者基本計画（概要） 参考資料：厚生労働省「『我が事・丸ごと』の地域づくりについて」 参考資料：東京都障害者・障害児施策推進計画の概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>部長挨拶</p> <p>配布資料確認</p> <p>1 西東京市地域自立支援協議会計画改定作業部会協力委員依頼状伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力委員への依頼状確認 ・配布資料確認 ・欠席委員の連絡：室山委員、天宮委員 ・障害福祉課長より挨拶 <p>2 委員自己紹介</p> <p>3 部会長及び副部会長の信任</p>	

- ・委員了承のもと、高田部会長、橋爪副部会長が信任された。

4 議題

(1) 「西東京市障害者基本計画」の改定について

事務局より資料1 説明

○委員：

平成29年度実施アンケート調査の回収率が平均すると47.4%ということだが、これは過去の実績分と比べて高いのか、低いのか。また、回収率が低いのであれば、今後、回収率を高めていくにはどうしたらよいか。具体的な方策等はあるか。

○事務局：

平成26年に策定した障害者基本計画だが、前回調査と比較すると回収率は少し増加している。身体障害者については前回48.9%だったところ、今回は50.1%だった。知的障害者については、前回41.7%だったところ、今回は44.7%だった。精神障害者調査については、前回38.2%であったところ、今回は35.8%となっている。難病患者調査については、前回44.6%だったところ、今回は47.3%だった。

○委員：

本会議で行うことは、5年前に策定した西東京市障害者基本計画の改定と理解して良いか。新たに冊子を作りかえるのか。中間見直し、改定の方針を教えてほしい。

5年間で達成できたこと、達成できなかったことは現状を検証すればよい。本会議では新たに付け加えるべき項目や、環境の変化、今後の動きまで見据えて取り組むのか。

○事務局：

事務局としては、現行計画をベースとしたうえで、社会情勢等を見据えて見直していく方針で考えている。

平成26年度に西東京市障害者基本計画を策定してから5年経過し、状況は変化している。国の計画の変更、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現や西東京市の健康応援都市、各種法改正、2020東京オリンピック・パラリンピック等の開催がある。

また、昨年度、第5期西東京市障害福祉計画・第1期西東京市障害児福祉計画策定時の計画策定部会において、本部会で議論する方が適切な内容の意見があった。パブリックコメントにおいても同様の意見があった。

また、昨年策定部会の中でも「何が変わって何がそのままなのかというところが見えづらい」という意見が委員からあった。その点についても、改定部会の計画の中に入れていきたいと思っている。

○委員：

基本計画は1年半かけて策定したものである。計画の基本骨格として、基本理念、3つの基本方針、5つの重点推進項目、各種施策等を紐づけて策定されている。こうした基本骨格も変えることになるのか。個人的には、環境の変化や時代の変化を見据えて変えることには賛成だが、その変更の仕方の議論等はどのように考えているか。

○事務局：

会議の進め方としては、第1回で全ての資料を説明するので、資料をご確認頂き、第2回目以降で具体的な議論を進めたい。議論の内容は、委員の指摘する骨子の変更等も含めて一般的に行う。

○委員：

アンケート調査の実施状況についてだが、アンケート調査は継続的に結果をみていくことが必要である。資料の14ページ、15ページを見ると、「差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることの有無」「障害・障害者への理解」はどちらも指標が下がっている。これは、おそらく西東京市に住む障害者の、市の施策全般に対する満足度が横ばいから低下している

と感じられる。これは何が起きているのだろうかと思う。せつかく5年前に西東京市障害者基本計画を策定し、努力をしている中でこのような現状は深く見ていかないといけない。通常はこのような計画を策定すれば良くなっていくはずである。

○委員：

ここ数年で、西東京市に他地域からの移住者が増えている。そうした人に対して、地域に関する意識等の浸透が難しいことも結果に表れていると思われる。

○委員：

資料の14ページ「差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることの有無」は毎年聴取している質問だが、差別や人権侵害、虐待をひとくくりにして回答することは難しいと思われる。差別を受けているという認識は身近にあると思うが、虐待を受けている人の数もこの調査で想像出来るようになったら良いと思う。

(2) スケジュールについて

事務局より資料2 説明

※質疑なし

(3) 昨年度計画策定部会において出された今部会で検討する事項

事務局より資料3 説明

○委員：

1 ページ目項目3「障害や障害者への理解推進(学校や保育施設、幼稚園等との連携)」の、「学校へ出前講座のようなイメージで障害に関する講座などが行えると良い」とあるが、もう一步積極的に進めて考え、障害者との定期交流会や小中学校の総合学習の時間にボランティアの機会を設けてはどうか。

○事務局：

昨年の計画策定部会でもそのような意見があったことを踏まえ、教育委員会と調整を始めている。今年度より、授業なのか、集会の時間なのか、どこの学校からなのか、小学校からなのか中学校からなのか、そのような調整を開始している。また、学校によっても障害や障害者への理解は等しくないことも指摘されている。取組の順序も踏まえ、教育委員会と調整している。

○委員：

「相談支援センター・えぼっく」の周知徹底と合わせ、資料3の2ページ目下「周知・広報の仕方等の工夫」への取組も必要である。相談支援センターにいきなり出向いて相談ができない人もいる。前段階として、保護者が育児全般を気軽に相談できるようなオープンカフェスペースのような取組があるとよい。

○事務局：

東京都発達障害者支援センターでは、昨年度よりペアレントメンターの取組を開始している。ペアレントメンターとは、発達障害等の子どもを育てた経験をもつ保護者が傾聴の技術などを学び支援を行うことである。今年度、西東京市でも発達障害者支援センターと連携しながら6月に茶話会を行う予定である。専門機関に行くのはハードルが高いと思うので、その前に、低いハードルで、出入り自由、気軽に先輩の保護者に話を聞いてもらうイメージで考えている。茶話会は今回、初めて行うので、反応を見て今後のやり方を考えたい。

また、既存の授業だと、「相談支援センター・えぼっく」の中でピアカウンセリング、ペアピアカウンセリングを行っている。ピアカウンセリングは身体障害(現在は中途失聴と難聴)の方に当事者相談をやってもらっている。ペアピアカウンセリングは、ペアレントピアカウンセリングといって、ペアレントメンターに近い形式で実施している。予約制の相談窓口である。

○委員：

障害者支援団体である「ぶーけ」の代表を務めているが、「ぶーけ」では2年前より「トータルルームぶーけ」という誰でも参加できるグループ相談事業を行っている。その前に協働事業としても行っていた。ペアレントメンターは発達障害に特化しているが、「ぶーけ」ではその他の障害についても相談に乗っている。ダウン症のお子さんやその他精神障害のお子さんを持つお母さんたちとおしゃべりをする会も行っており、毎回「ぶーけ」以外のメンバーの参加もある。

○事務局：

ワンストップ型の相談支援窓口や「えぽっく」の位置付けについては、障害者総合相談支援センターを設置した時期から、西東京市地域自立支援協議会の中で様々なことが議論されてきた。その結果、障害福祉課に基幹相談支援センターをおくこと、障害の種別に関わらず「えぽっく」に来てもらい関係機関と連携をして支援していくということで、整備をしてきた。しかし、一般の方にわかりづらくなっていることや、「えぽっく」にどこまでの相談支援ができるか。ワンストップ型の相談窓口として「えぽっく」を位置付けてきたが、改めてあり方を考えたい。

○委員：

資料3のまとめ方は、現計画に準拠しているのか。

○事務局：

現計画の体系とは関係なく、意見内容が近い項目をカテゴライズしている。

(4) 西東京市における関連施策の進捗状況について

事務局より資料4 説明

○委員：

「ライフステージ」とあるが、ひとりひとりの人生設計により焦点を置いた「ライフコース」とする表現が使われているトレンドもある。

○事務局：

障害者基本計画における文言や表現は、市の上位の計画における表現も踏まえて記載している。今後、部会で検討していく中ではそのような提案も頂ければと思う。

○委員：

資料4において、「評価」は誰が行っているのか。

○事務局：

障害福祉課の施策は、当課で行っている。他の施策は、各担当課による自己評価である。

5 その他

※事務局より、第2回以降の計画改定作業部会日程について連絡

○委員：

事務局への依頼が2つある。1つは、5年前から現時点までの西東京市の障害福祉に係る新設された制度や、市内に誘致された事業者の情報など、差分の情報を示してほしい。

もう1つは、資料4について。カテゴリをより集約した示し方がされると良い。各課での整理ではなく、計画書の体系別にどのような進捗状況かを、市の職員の視点で整理してほしい。

○委員：

本計画改定は中間的見直しとして考えるのであれば、今までの取組の状況を踏まえて進捗状況の検討や分析をするのが妥当。あとは、未達成の課題中心に議論していくべきである。基本的には、課題を抽出して議論を進めていくことがよいのではないかと。

○委員：

近隣市と比較した状況を整理した資料を示してほしい。西東京市と他市を比較した客観的な立ち位置がわかり有益である。そのような資料を見ると今後の課題が見えてくるはずである。

○委員：

時代の変化もあるが、国の示した障害者基本計画を再度確認し、次回以降の議論を進めていくとよいだろう。

閉会